

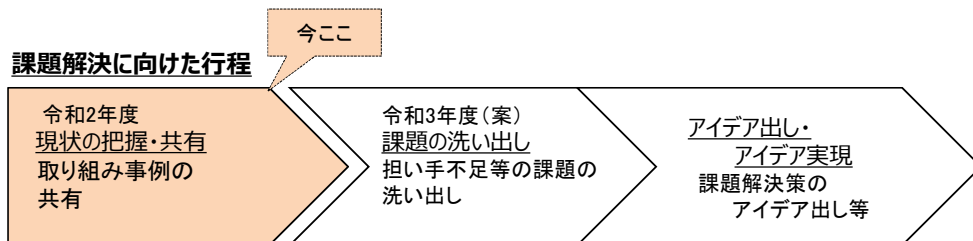
地域の担い手育成等について

～西区自治協議会～

西区自治協議会では、多くの自治会・コミ協が担い手不足や担い手育成の課題を抱えている現状に寄り添い、担い手不足等の解消のヒントを共有するために委員アンケートを実施し、まとめました。

[アンケートの概要]

実施時期：令和3年1月 回答数：22名の回答のうち主なものを掲載



1 役員等の決め方の現状や課題

(1) 自治会について

役員等の決め方の現状や課題（良い点や課題）

○輪番・各班毎に持ち回り

- ・持ち回り制を導入（5班を1グループ、4つの選出ブロックほか）
- ・部長は輪番制
- ・班別、年度別に役員予定表の輪番制で決めていて良い。
- ・みんなが役員をしますので、理解が広がる。会長は2年任期なのでやっと分かった時に交代となる。
- ・会長、副会長は2年任期、部長は1年任期で交代するため、多くの自治会員が自治会のしくみを学ぶことができると思う。役員は交代でやるものという意識が根づいている。会長経験者も現役員をサポートしている。
- ・自分の家の順番がわかり、スムーズにまわっているが、高齢化が進むと役員等ができない人が出てくる。
- ・1年毎の当番制の班長から役割分担。平等だが、家庭のその時の事情や向き不向きがある。
- ・自治会活動のマンネリ化

○推薦等

- ・各班から役員候補を推薦。候補者が一堂に会し、話し合ったり、くじ引き、じゃんけん等で決めている。各班では輪番制で決めているので高齢世帯が候補にあたることもある。
- ・現役員からの勧誘。人材不足（高齢化、地域活動への興味が無い）

○選考委員会等で選出

- ・人選に苦慮している。
- ・選考委員の選び方に問題が出てきた。

○個別のお願い

- ・退任の場合は自分で後任をお願いしている。
- ・なり手が見つからない。依頼する方は大変な精神的負担
- ・積極的に引き受けてくれる人が少なく苦慮している。

○立候補

- ・人選に偏りがでる。
- ・多くの住民に地域活動や自治会活動に参加関わりをもってもらえない。

○投票

- ・選出役員の固定化、総会出席者の高齢化
- ・全世帯投票を2年毎に実施。班長が半年交代で積極的でないと白紙回答が多くなってしまふ。

○年齢順（特例を除き）

- ・副自治会長を2年経験後に自治会長を2年務めて退任。割合スムーズにしている。

○役割分担

- ・地域全体の役割分担の中で、自治会長と副自治会長は非農家から選出している。

<その他の現状や課題等>

- ・任期の制限がないので継続して長い期間同じ人が自治会長などを担うと次に担う人が出てこないし、担えない。
- ・次につながる人材育成も自治会長などのリーダーには求められると感じる。
- ・誰でもできるように体制を整備することが必要
- ・退職年齢も上がり、経済もなかなか厳しい中、誰でもできるような体制が必要。
- ・自治会長になると宛て職が多すぎる。そのため、付随して会議なども頻繁になり、自分の地域活動に思うように時間を割けない。
- ・一度会長になると何期も継続しがちである。しかし、活動に対して会長の考えが反映しやすく自治会の活性化に繋げることができる。
- ・定年延長が進んで、ほとんどの役員が働いており、事業実施に影響が出る場合もある。
- ・役員の負担が多く、働いている人は無理です。
- ・行政の連絡や会議は平日の昼間が多い。そのために責任をもって引き受けられない方もいる。
- ・役所関係の会合は昼間が多いので夜間に開催した方が引き受け手が増えるのではないかと。
- ・定年退職者もしくは働いている人から会長になってもらうことは容易ではないが、結果として人望も厚く、前向きな人が選ばれている。
- ・担い手が不足しているのではなく、引き継がず育成していないだけではないだろうか。
よく担い手不足という言葉が聞けるが、地域には人材が豊富である。



(2) コミ協について

役員の決め方等の現状や課題（良い点や課題）

○理事会や役員会で決める

・構成団体のうち、自治会から選出される代表で決める。構成団体が多く、全構成団体の意見集約が難しい。

・部会長などから適任者を探す。・適任者を推薦できて良い。

○立候補

・立候補者が必ずしも適任とは限らない。

○個別のお願い

・日頃の活動を通じて適任者を探し、お願いしている。・退任する場合は自分で後任をお願いする。

○分担

・各地区の代表者で会長、副会長を分担する。・各連合会長が運営している。

○会長選考委員会等を立ち上げて選出

・選考委員会で民主的に選出された会長は、みんなから望まれて会長になる。また、たくさんの住民に関心をもってもらったためにも選考委員会を立ち上げての選出方法は次回以降も続けたい。

○推薦

○記名投票

○特になし（不明）

・会長の交代が無く、活動がマンネリ化している。また、役員が固定化しており、コミ協内のすべての自治会に所属意思が薄い。

<その他の現状と課題等>

・自治会長の約半分が1年交代となっており、人材育成の仕組みづくりが難しい。

・自治会長の任期が短く、役員選出の弊害となっている。

・副会長の役割分担が少ない。少ない人数で事務局を運営している。

・部会員は大勢いるが活動を伴っておらず、担い手を発掘することが困難。

2 担い手不足解消や担い手育成等のヒントとなる取り組み等

(1) 自治会について

・30代、40代の若手や中堅層が主体となった活動を進めている。予算を各事業等に分配し、活動場所（部屋）の確保も支援している。自主的に活動できるよう支援している。活動メンバーのうち数人が班長となり、積極的な意見を述べており、次代のリーダーが育っている。

・若手会長経験者からコミ協の役員になってもらい経験を積んでもらっている。

・自治に関わる関係者名簿を配布することで、地域での役割分担の情報を地域全体で共有している。

・役員の仕事を分散化して、負担を軽減している。

・女性の役員も増えるといろいろな発想も生まれ活性化するのではないかと。

・役員若返り化を図った。

・エリアを決めて輪番にすることで、多くの方が最初は「仕方なく」担う。けれど関わってみないとわからないことも多く、自治会活動や地域活動に理解ができてくる。理解者が増えることで、またその次の自治会長はやりやすくなり、地域のことを考える住民が増えてくることになる。

・若い担い手発掘のためにも、個人の社会生活、家庭生活と並行して担える仕組みづくりが急務。

・行事に参加し、班活動も一生懸命な方に機会のある度に話しかけている。時期が来た時に快く承じていただいたケースが3、4件ある。

・いつまでも親が役員になるのではなく、子ども世代（40才以上）に交代した方が良い。

・役員でなくても手助けをしてくれる若い力、把握や登録などを考えている。役員27人中16人が女性で、うち7名は5年以上継続している。

・ある程度、有償としてお手伝い、協力を呼びかけ（強制でない気軽さで）を行っている。

・家族で楽しみながら、結果として地域のためとなっている自治会を理解していただける様な取り組みを企画（家族とともに地域の危険箇所発見ゲーム、ごみ拾い競争、ラジオ体操防災訓練）

・班長にならないと知らされない情報や役割の内容及び、現役世代（班長以外の会員等）とのつながりが薄くなってしまうか不安。青年部からミドルで中堅的な役割や組織があればと思う。

・世代交代、若い方が楽しめる企画の実施。

(2) コミ協について

・9つの専門部会や理事会に所属してもらうことで人材育成を行っている。

・ブロック毎の会議を開催したり、交流事業のなかで声かけをして発掘している。

・地域の住民と親睦を深める事業を実施し、地域のみなさんと交流を深める。コロナ禍でなかなか交流ができない。

・コミ協の中で女性の活動グループを作り、参加者を募ることで女性の活動者が出てきている。

・イベントなどの参加を通じて理解を深めてもらい、最終的に役員になってもらう。

・世代を超えて誰もが参加できるような活動を模索し、参加してもらうことや、広報紙、その他の情報発信をすることで、たくさんの住民に活動を知ってもらう。理解と協力をしてくれる方がどんどん出てくると、その中から次世代に担い手が見えてくる。

・声掛けや口コミも大事。「人から人につながること」は、地道だが本当はそれが一番大事なことと感じる。

そして、世代交代を考える時、たよりや回覧板にプラスしてSNSの活用、ホームページやLINEなどは必要なツールだと思ふ。

(3) その他の団体について

・地域の茶の間運営団体の場合、1人の代表者がすべてやるのではなく、代表者、会計担当、渉外担当、広報担当の役割分担をする。運営については3～5名程度でチームになって皆で話し合い、代表者の負担感を減らしている。

・実施している事業の参加者や協力者から適切な人材を見つけ出す。

・担い手となりうる方に事業やプログラムの一部を任せてみる。「やりたい」と思うことをやらせてみる。

・交流会など楽しい取り組みを行う。

・お金の手当て（報酬）を出す。

・顔を見合える場を作ることが大切

・現在は行っていないが、SNSを活用し、情報をオープンにして交換することで次世代の意欲を育てるといふと思う。

・育児などテーマ毎に有志が集まって、語ったり、課題解決の場となるグループやイベントがあれば良いと思う。

西区自治協議会は、これからも
さまざまな地域課題の解決に向けて
取り組んでいきます。

